

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	子宮体がん術後の腔断端細胞診の検討
	研究目的	子宮体癌の腔断端再発は単独であれば比較的予後良好であり，早期診断と早期治療が望まれる．腔断端細胞診は腔断端再発のスクリーニングのために日常診療にて施行されている検査だが，それに関する文献は少ない．今回の研究では2011年1月～2014年12月に当院にて子宮体がん手術を施行した症例の後方視的検討を行い，子宮体癌の腔断端再発の診断に腔断端細胞診が有用であるかを考察する．
	研究期間	西暦 2019 年 7 月 20 日 ～ 西暦 2019 年 7 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理についての責任者	研究責任者	上原 萌美
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	婦人科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし